

横山成教
小川重喬
渡邊義雄

擬律必携

三編
下

7 13
6549
8



門 13
號 6549
卷 8



擬律必携三篇下

横山成教

小川重喬 同輯

渡邊義雄

罵^バ律

罵^シ人^ヲ新律綱領

凡人^ヲ罵^ル者ハ各一十互ニ相罵^ル者ハ各各一

十

罵^ル本屬長官^ヲ新律綱領

凡吏卒軍民本屬^ノ勅任長官^ヲ罵^ル者ハ徒一年

疑律必携 三篇下

早稻田大學 圖書館
昭和 27.3.1 受
藏 書

奏任長官ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官ヲ罵ル者

ハ杖六十

其長官及ヒ本屬ニ非ル者ハ各二等ヲ減ス並ニ

親ヲ聞テ乃坐ス

滋賀縣伺 二十四月

罵詈律人ヲ罵ルハ答一十トアリ若シ兩人

罵ルニ一人隨從者ナレハ一等ヲ減シ答數

無レ之右ハ罰文ニ罵詈律ニ依リ呵責ノ旨申

渡シ候哉

指令

首從ヲ分タス罪ヲ科ス

廣島縣伺 二十七年三月九日

改定律第二百三十七條 邏卒ヲ罵ル者ハ凡

人罵詈ニ二等ヲ加ヘ候明文有之候處茲ニ

鎮臺病院在テ門前ニ番兵アリ然ルニ二人ノ

士族大醉ニテ其前ヲ過ル折節番兵ニ向ヒ

暴言ヲ吐ク者アリ是等邏卒ト同ク凡人罵

詈ニ二等ヲ加シ可然哉

右ノ外番兵ニ非スシテ曜日休暇等ニテ途

上來往ノ兵卒ニ向ヒ暴言ヲ吐ク者アラハ

加等如何可相心得哉

指令

兩條共凡人罵詈ヲ以テ論ス加等スルノ限

ニアラス

罵詈律

罵官吏律改定律例 罵本屬長官律

第二百三十四條

凡勅任官ヲ罵ル者ハ懲役一

年奏任官ヲ罵ル者ハ懲役九十日判任官ヲ罵

ル者ハ懲役六十日並ニ親ヲ聞テ乃坐ス

罵官吏條例改定律例

第二百三十五條

凡判任官勅任官ヲ罵ル者ハ

懲役六十日奏任官ヲ罵ル者ハ懲役四十日並

ニ親ヲ聞テ乃坐ス

第二百三十六條

凡奏任官勅任官ヲ罵ル者ハ

判任官奏任官ヲ罵ルト罪同シ其勅任官奏任

官ヲ罵リ及ヒ奏任官判任官ヲ罵ル者ハ並ニ

凡人罵詈ヲ以テ論ス

第二百三十七條

凡平民本屬ノ戸長ヲ罵ル者

ハ凡人罵詈ニ一等ヲ加ヘ選卒ヲ罵ル者ハ又

一等ヲ加フ

筑摩縣伺 七年四月

地方官ニ置ク處ハ警察捕亡吏等外ヲ罵ル者ハ改定律例二百三十七條 邏卒ヲ罵ル者

ト同シク論シ可然哉

但區長ヲ罵ル者ハ判任官ヲ罵ル者ヲ以

テ論シ可然哉

指令

本文但書共同ノ通

罵家長 新律綱領

凡奴婢家長ヲ罵ル者ハ徒一年 瀝次家長ヲ罵ル

者ハ杖八十並ニ家長ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス

罵有服尊長 新律綱領

凡卑幼四等親ノ尊長及ヒ妻ノ父母ヲ罵ル者ハ

笞五十三等親ノ尊長ハ杖六十若シ兄弟ヲ罵ル

者ハ杖九十伯叔父姑外祖父母ハ杖一百若シ妻

妾夫ノ有服尊長ヲ罵ル者ハ夫ノ罵ルト罪同シ

並ニ尊長ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス

滋賀縣伺 六年四月

罵有服尊長條中相見ハ候等親ノ中舊幕例

ニテハ無服ノ者モ有之哉ニ相見ハ候服忌

例一部御渡被下度候

指令

無服ノ者ヲ罵ルハ凡人ヲ罵ルト同シ律ノ

等親ハ別例ニシテ服忌例トハ大同小異故

ニ服忌例ニ據リ罪ヲ定メ難シ

罵祖父母父母 新律綱領

凡子孫祖父母父母ヲ罵リ及ヒ妻妾夫ノ祖父母

父母ヲ罵ル者ハ並ニ流三等祖父母父母ノ親ラ

告ルヲ待テ乃坐ス

罵祖父母父母條例 改定律例

第二百三十八條 凡子孫祖父母父母ヲ罵リ及

ヒ妻妾夫ノ祖父母父母ヲ罵ル者ハ流三等ニ

處スル律ヲ改メ並ニ懲役三年

訴訟律

越訴新律綱領

凡吏卒軍民詞訟スルニ本管ノ官司ニ由ラズシ

テ輒々上司ニ越訴スル者ハ實ヲ得ルト雖モ答

三十本管ノ官司受理セズ及ヒ枉斷スル者ハ上

司ニ陳告スルヲ許ス

若シ理應ニ文書ヲ投シ事ヲ伸訴シテ實ナラサ

ル者ハ杖七十事重キ者ハ誣告律ニ依テ論ス實
テ得ル者ハ罪ヲ免ス

承告不理 新律綱領

凡人命及ヒ強盜等ヲ告ルニ官司即時ニ受理セ
サル者ハ杖七十 闘毆婚姻田宅等ノ事ハ各犯人
ノ罪ニ二等ヲ減シ並ニ罪杖七十ニ止ル財ヲ受
ケテ受理セサル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キ
ニ從テ論ス

聽訟回避 新律綱領

凡官吏訴訟人ト親族若クハ師弟及ヒ 離隙アル

者ハ並ニ回避スルヲ聽ス違フ者ハ罪ニ増減

無シト雖モ笞三十若シ増減アル者ハ故出入人

罪ヲ以テ論ス

誣告 新律綱領

凡人ヲ誣告スル者ハ罪ノ輕重ニ從ヒ已ニ決配

シ未タ決配セザルヲ問ハス告人ヲ反坐ス

死罪ニ誣告シテ未タ處決セサル者ハ一等ヲ減

ス

若シ二事以上ヲ告ルニ重事ハ實ニシテ輕事ハ

虚及ヒ數事ヲ告テ罪等キニ一事實ナル者ハ並

ニ誣告ノ罪ヲ免ス
 若シ二事以上ヲ告ルニ輕事ハ實ニシテ重事ハ
 虛或ハ一事ヲ告ルニ輕ヲ誣テ重ト爲ス者ハ並
 ニ判ル所ニ反坐ス
 其二人以上ヲ告ルニ但ダ一人實ナラサル者ア
 レハ罪輕シト雖モ猶ホ其罪ニ反坐ス
 若シ上書シテ人ヲ告ルニ已ニ奏聞シテ事實ナ
 ラサル者反坐ノ罪徒二年ニ及バザル者ハ上書
 詐不實律ニ依テ論ス
 若シ獄囚巴ニ伏罪シテ冤枉ナキニ囚ノ親族

訴スル者ハ囚ノ罪ニ三等ヲ減ス罪杖一百ニ
 止ル

白川縣同二十五年五月

訴訟律 誣告條凡ソ人ヲ誣告スル者ハ罪
 ノ輕重ニ從ヒ已ニ決配シ未タ決配セサル
 ヲ問ハス告人ヲ反坐スト有之若シ無罪ノ
 人ヲシテ竊盜一円以下ノ罪ヲ誣告シ或ハ
 甲ヨリ搥棒ヲ以テ歐傷セラル、ヲ乙ニ私
 怨アツテ乙ニ歐傷スト詐告スルニ於テハ並
 ニ告人ヲ反坐スルハ固ヨリ言ヲ俟タス然

處同條内第五項ニ若シ上書シ人ヲ告ルニ
 已ニ奏聞シ事實ナラザル者及坐ノ罪徒二
 年ニ及ハサル者ハ上書詐不實律ニ依テ論
 スト有之此人權衡ニ依ル氏ハ右窃盜歐傷
 ナ誣告スル者ノ如キハ所謂上ニ告ルニ詐
 テ實ヲ以テセサル者ナレハ及坐ノ罪懲役
 八十日ニ及ハサル者ハ亦對詔上書詐不以
 實條例凡對詔上書及ヒ奏事ヲ除ク外上ニ
 告ルニ詐テ實ヲ以テセサル者ハ懲役一年
 事情輕キ者ハ懲役八十日ト云テ以テ科斷

可然哉

指令

誣告スル者及坐ノ法第一項ニ依テ處分ス
 ヘシ第五項上書シテ人ヲ告ル云々官吏ノ
 罪ニシテ本文ト異ナリ

訴訟律

誣告條例改定律例

第二百三十九條 凡收贖々罪ニ該ル罪ヲ以テ
 人ヲ誣告スル者ハ即チ收贖々罪ニ及坐ス若
 シ已ノ罪ヲ避ンテ規リ人ヲ誣告スル者ハ

源罪收贖々罪ニ該ルト雖モ反坐ノ罪贖フ
ヲ聽サス婦女ノ犯ス者モ亦此例ニ依ル

濱田縣同三十年三月

改定律例二百三十九條已ノ罪ヲ避ル

規リ人ヲ誣告スル者ハ原罪收贖々罪ニ該

ルト雖モ反坐ノ罪贖フヲ聽サスト有之

原罪贖決ノ者加等ノ例不相見候亦此節一

賊アリ竊盜ヲ行ヒ敗露ノ場合ニ至リ其盜

ハ所ノ財物ハ何某ヨリ買得スル所也ト誣

告シ雙方拷尋ノ上其情ヲ得誣ラル者ニ

於テハ以テ外致迷惑候次第箇梯ノ誣告人
ヲ本罪ノ三科シ候テハ已ノ罪ヲ規避スル
為ニ無罪人ヲ誣ルノ弊ヲ生シ自然良民ノ
禍ト可相成右ハ如何處斷仕候テ可然哉
指令

第一項誣告ハ原罪實決ニ該ルモ加等セス
第二項本文ノ如キハ盜犯ノ常狀ニシテ真
ノ誣告ニ非ズ被誣者ヲ推問セハ即チ其事
實ハ自ラ判然ナリ律ニ其重罪ヲ犯シ証
明白ナルニ招承ニ服セサル者ニ非レハ拷

訊セズト云フ因テ本文ノ如キ盜犯ニ一時
 誣ラル者ヲ拷訊ス可キニ非ス
 干名犯義新律綱領
 凡子孫祖父母父母ヲ告ケ妻妾夫及ヒ夫人祖父
 母父母ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ徒二年半誣
 告スル者ハ絞若シ二等親ノ尊長及ヒ外祖父母
 ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ杖九十三等親ノ尊
 長ハ杖八十四等親ノ尊長ハ杖七十妻ノ父母ハ
 杖六十其告ラル、二等三等親ノ尊長及ヒ外祖
 父母若クハ妻ノ父母ハ並ニ自首ニ同ク罪ヲ免

ス四等親ノ尊長ハ本罪ニ三等ヲ減ス若シ誣告
 ノ罪重キ者ハ各誣ル所ノ罪ニ三等ヲ加ヘ罪流
 三等ニ止ル
 其嫡繼母亦生母其父ヲ殺シ及ヒ養父母其所生
 父母ヲ殺シ若クハ二等親以下ノ尊長ニ謝産ヲ
 侵奪セラレ或ハ其身ヲ歐傷セラレテ卑幼ノ自
 訴ス可キ者ハ並ニ告ルヲ聽シ告ラル、者ハ各
 本律ニ依テ之ヲ科ス干名犯義ノ限ニ在ラス卑
 幼ノ告ラル、モ亦同
 若シ卑幼ヲ告ゲ實ヲ得ル者二等三等親ノ卑幼

及ヒ女婿モ亦自首ニ同ク罪ヲ免ス四等五等親
 ノ卑幼ハ本罪ニ三等ヲ減ス誣告スル者二等親
 ノ尊長ハ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減シ三等親ノ尊
 長ハ二等ヲ減シ四等五等親ノ尊長ハ一等ヲ減
 ス
 若シ夫妻ヲ誣告シ及ヒ妻妾ヲ誣告スルモ亦誣
 ル所ノ罪ニ三等ヲ減ス
 若シ奴婢家長ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ杖九
 十誣告スル者ハ絞羅人家長ヲ告ル者ハ杖六十
 誣告スル者ハ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ加ヘ罪流三

等ニ止ル
 其祖父母父母外祖父母子孫外孫ヲ誣告スル者
 ハ論スルヲ勿レ
 若シ家長奴婢雇人ヲ誣告スル者ハ並ニ誣ル所
 ノ罪ニ三等ヲ減ス
 京都裁判所 同 六年十二月
 司法省 日誌 後第二十一号 開拓使ヨリ養父
 其養女トシテセシテ告言セシ養父ノ妻云々
 ノ疑問ニ妻ハ干名犯義ヲ以テ論シ夫ハ罪
 ヲ問ハスト御回答相見ハ然ニ干名犯義ノ

是律公案 三編 下 十一

條二等三等親ノ尊長ハ自首ト同ク罪ヲ免
 ストアレド又犯罪自首條ニ姦罪ハ自首ノ
 律ニ在ラスト之アリ候所干名犯義ニ限リ
 自首ノ正條ヲ離レ人ヲ損傷スルノ類及ヒ
 姦スル者モ更ニ自首ヲ准ス可キ哉果シテ
 然ラハ二等三等親ノ尊長人ヲ歐傷スルニ
 卑幼告言スレハ卑幼ヲ干名犯義ニ坐シ其
 尊長ハ自首ト同ク罪ヲ免シ四等親以下モ
 律ニ照シテ減等ス可キ哉
 指令

開拓使問合ノ回答ハ再議ニ依リ養父養女
 ナ姦スル者ハ前夫ノ女ヲ姦スル權衡ニ依
 リ各懲役一年妻ハ干名犯義ヲ以テ論シ懲
 役二年半人ヲ損傷シ及ヒ姦スル者ハ律ノ
 通り二等三等親ノ尊長人ヲ歐傷スル卑幼
 告言スレハ卑幼ハ干名犯義ヲ以テ論シ其
 尊長ハ歐傷ノ罪ヲ科ス四等親以下モ之レ
 ニ倣ヘ
 堀玉裁判所伺 七年六月
 妻妾夫ニ歐打セラレ告訴スル者折傷以上

ニアラサレハ仍ホ千名犯義ヲ以テ科シ夫
ハ罪ヲ論セス其折傷以上ノ者夫ハ歐傷妻
妾條ニ依リ罪ヲ科シ妻妾ハ千名犯義ノ
ニアラサル哉
千名犯義中妻妾ノ夫ヲ告ル者モ名例律婦
女犯罪不孝等ノ例ニ同ク收贖ヲ聽サバ
哉

指令

第一條夫妻妾ヲ歐キ折傷以下罪ヲ論セサ
レハ妻妾告訴スト雖モ千名犯義ノ罪ヲ科

セス後歐折傷以上ハ伺ノ通

第二條伺ノ通

千名犯義條例 改定律例

第二百四十條 凡子孫祖父母父母ヲ誣告シ妻

妾夫及ヒ夫ノ祖父母父母ヲ誣告スル者ハ絞

ニ處スル律ヲ改メ懲役終身

子孫違教新律綱領

凡子孫祖父母父母ノ教令ニ違犯シ及ヒ奉養缺
クル有ル者ハ杖一百祖父母父母ノ親ヲ告ル
ヲ待テ乃チ坐ス

子孫違教條例 改定律例

第二百四十一條 凡祖父母父母老疾シテ家ニ
侍養ノ親ナキニ故ラニ棄去ル者ハ懲役二年

教唆詞訟新律綱領

凡詞訟ヲ教唆シ及ヒ人ノ為ニ詞狀ヲ作り情罪
ヲ増減シテ人ヲ誣告スル者ハ犯人ト同罪々流
三等ニ止ル
若シ雇ヲ受ケ人ヲ誣告スル者ハ自ラ誣告スル
ト罪同財ヲ受ル者ハ職ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キ
ニ從テ論ス

其人ノ愚一シテ冤枉ヲ伸ルコト能ハサルヲ見テ
教令スルニ實ヲ得及ヒ人ノ為ニ詞狀ヲ書寫シ
テ罪ニ増減ナキ者ハ論スルコト勿レ

官吏詞訟新律綱領

凡官吏婚姻錢債田宅等ノ事ヲ爭論スルコト有レ
ハ家人ヲシテ官ニ告テ對理セシムルコトヲ聽ス
官吏自ラ公文ヲ以テ行移スルコトヲ許サズ違
者ハ笞三十

受職律

官吏受財新律綱領

凡官吏枉法不枉法ノ事ニ因テ財ヲ受ル者ハ職
 計ヘ之ヲ科ス等外人ハ各一等ヲ減ス
 若シ說事過錢スル者等内人ハ錢ヲ受ル人ニ一
 等ヲ減ス等外人ハ二等ヲ減ス罪徒一年半止
 ル若シ別ニ財ヲ受ル者ハ枉法不枉法職ニ計ヘ
 重キニ從テ論ス
 枉法ノ職各主アル者通算シテ全科ス
 一兩已下杖六十
 一兩以上杖七十
 一十兩以上杖八十

二十兩以上杖九十
 三十兩以上杖一百
 四十兩以上徒一年
 五十兩以上徒一年半
 六十兩以上徒二年
 七十兩以上徒三年
 八十兩以上徒三年
 九十兩以上流一等
 一百兩以上流二等
 一百一十兩以上流三等

二百五十兩以上絞
等外人ハ三百兩以上絞

不在法ノ贓各主アル者通算シテ全科ス

一兩以下笞五十

一兩已上杖六十

一十兩以上杖七十

二十兩以上杖八十

三十兩以上杖九十

四十兩以上杖一百

五十兩以上徒一年

六十兩以上徒一年半
七十兩以上徒二年
八十兩以上徒二年半
九十兩以上徒三年
一百兩以上流一等
一百一十兩以上流二等
一百二十兩以上流三等
三百兩以上絞
等外人ハ三百兩以上ニ至リ罪流三等一止ル

一、三百兩以上者、罪無三等一、五
 一、二百兩以上者、罪無三等
 一、一百一十兩以上者、罪無二等
 一、一百兩以上者、罪無一等
 六十兩以上者、罪無三等
 六十兩以上者、罪無二等
 六十兩以上者、罪無一等

受贓律

官吏受財條例 改定律例

第二百四十二條 凡官吏枉法贓ヲ受ル者等内

人ハ二百五十圓以上等外人ハ三百圓以上絞

刑ニ處シ及ヒ不枉法贓等内人ハ三百圓以上絞

刑ニ處スル律ヲ改メ並ニ懲役終身ニシテ

官吏受財條例 明治六年七月廿日 御布告

凡枉法不枉法ヲ以テ論シ及ヒ准シテ論スル罪

平民ハ等外人ト同ク罪ヲ科ス

凡枉法不枉法ノ事ニ因リ財ヲ受ルニ非スシテ

賊ニ坐シ罪ニ致ス者ハ通算シテ罪ヲ科ス與ル

者ハ五等ヲ減ス圓以上奉入ハ三百圓以上

五兩以下笞二十

五兩以上笞二十

二十兩以上笞三十

四十兩以上笞四十

六十兩以上笞五十

八十兩以上杖六十

一百兩以上杖七十

一百二十兩以上杖八十

一百四十兩以上杖九十

一百六十兩以上杖一百

二百兩以上徒一年

四百兩以上徒一年半

六百兩以上徒二年

八百兩以上徒二年半

一千兩以上徒三年

事後受財 新律綱領

凡官吏承行ノ事アリ先キニ財ヲ送ルコトヲ聽許セズ事過ルノ後財ヲ受ケ事若シ枉斷スル者ハ枉法ニ準シテ論シ事枉斷セサル者ハ不枉法ニ準シテ論ス並ニ罪流三等ニ止ル錢ヲ出シ及ヒ過スル人ハ並ニ杖七十

事後受財條例 改定律例

第二百四十三條 凡官吏事後財ヲ受ル者ハ本條ニ依リ罪ヲ科スト雖モ其錢ヲ出シ及ヒ過スルノ人ハ並ニ杖七十二處スル律ヲ改メ坐

贓ニ依テ論シ一等ヲ減シテ並ニ罪懲役三十日ニ止ル

聽許財物 新律綱領

凡官吏財物ヲ送ルコトヲ聽許スレハ未タ接受セスト雖モ事若シ枉ル者ハ枉法ニ準シテ論シ事枉ケサル者ハ不枉法ニ準シテ論シ各一等ヲ減ス枉ル所重キ者ハ各重キニ從テ論ス

以テ財ヲ請求 新律綱領

凡諸人事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ法ヲ枉ルコトヲ得ント欲スル者ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ坐

賊ニ依テ論ス若シ難ク避ケ易ニ就キ枉グル所
 ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス
 若シ官吏ヲ蹬留難シテ歸結ヲ與ヘズ及ヒ強ク
 用ヒテ別ニ事ヲ生シ逼抑シテ財ヲ取受スル者
 ハ錢ヲ出ス人ハ坐セズ
 以財請求條例 改定律例
 第二百四十四條 凡枉法ノ事ニ非スト雖モ財
 ヲ以テ官吏ノ受理ヲ請求スル者ハ與フル所
 ノ財ヲ計ヘ坐賊ニ依テ論シ一等ヲ減ス
 官吏求借財物 新律綱領

凡監臨官吏勢ヲ挾ミ所部内ノ財物ヲ求索借貸
 スル者ハ並ニ賊ニ計ヘ不枉法ニ準ジテ論シ強
 ヲ用ヒテ索借スル者ハ枉法ニ準シテ論シ罪流
 三等ニ止ル其監臨ニアラサル官吏ハ各一等ヲ
 減ス
 若シ官ヲ去リ舊部内ノ財物ヲ受ケ及ヒ求索借
 貸スル者ハ各在官ノ時ニ三等ヲ減ス
 奈良縣伺 六年十一月十五日
 先般番人ノ儀ハ官民費ヲ問ハス等外吏ニ
 準スル哉ノ段相伺置未夕御指令無之處當

縣番人ノ如キハ別ニ逮部無之故ヲ以現行
犯罪ハ固ヨリ犯罪確實ナル者ハ捕縛スル
ノ權ヲ與ヘ有之處別紙犯罪ハ口供ノ通略
之ニ付等外吏ト見做シ候時ハ官吏求借財
物律ニ依リ論ス可キカ又平民ヲ以テ論ス
ルニ至テハ詐欺取財律局騙ヲ以擬問可致
カ決兼候ニ付此段相伺候也

指令

誅犯警保ノ任ニアツテ喚問人ヨリ金圓ヲ
求索スルニ依リ 受贓律官吏求借財物條

監臨官吏勢ヲ挾ミ所部内ノ財物ヲ求索
借贖スル者ヲ以テ論シ贓ニ計ヘ不枉法ニ
準シテ論シ等外人タルヲ以テ本罪ニ一等
ヲ減シ官吏私罪贖例圖ニ照シ科斷スヘキ
處免職ノ後事發覺スルヲ以テ例ニ依リ
懲役五十日 贓金四圓 松本定三
已ニ喚問ヲ達シ私ニ縱ッハ輕シ論セ
ス坐番人職務上ニ於テハ等外吏ニ準
シテ論ス仍テ本議ノ如シ
金圓ヲ接受スル後其情ヲ知テ首告セサル

依リ賊盜律盜賊窩主條例
 恐喝詐欺枉
 法云々ノ贓タルヲ知テ受ル者ヲ以テ論
 贓ニ坐シ五圓以下懲役十日免職ノ後事
 發覺スルヲ以テ閏刑ニ換ヘ
 禁錮十日
 吉田庸造
 自分所持品ヲ典賣セシニ運搬ノ際誤テ不
 正品ヲ其中ニ混カスト雖モ檢査ノ際知テ
 之ヲ抵換シ且官吏ニ促サレ已ヲ得ス旅費
 金ヲ出ス並ニ罪ノ問フ可キナシ
 無罪
 玉垣忠四郎

官吏求索ノ意ニ戾リ難ク喚問人ノ出金ヲ
 接遞スルモ罪ノ責ムベマナシ
 無罪
 家人求索新律綱領
 凡監臨官吏ノ家人奴僕所部内ニ於テ財物ヲ取
 受シ及ヒ求索スル者ハ各監臨官吏ノ罪ニ二等
 ヲ減ス監臨ニアラサル官吏ノ家人奴僕ハ又一
 等ヲ減ス若シ監臨官及ヒ官吏情ヲ知ル者ハ同
 罪罪流三等ニ止ル知ラサル者ハ坐セス
 因公科斂新律綱領
 疑律必集
 三宮
 下
 三十二

凡官吏公務ニ因テ擅ニ所部内ノ財物ヲ科斂ス
ル者ハ己レニ入レズト雖モ答五十贓重キ者ハ
坐贓ヲ以テ論ス己レニ入ル者ハ贓ニ計ヘ枉
法ヲ以テ論ス
其公務ニ因ルニ非ズレテ所部内ノ財物ヲ科斂
シ己レニ入ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論
ス若レ科斂シテ人ニ餽送スル者ハ己レニ入
ス、雖モ罪同

尅留盜賊、新律綱領

凡巡捕官吏己ニ盜賊ヲ獲テ贓物ヲ尅留シ官司

ニ送ラサル者ハ答三十己レニ入ル、者ハ贓ニ

計ヘ枉法ヲ以テ論ス

受外國人餽送、新律綱領

凡官吏人私ニ外國人ノ餽送ヲ受ケ即時ニ官ニ
告ザル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス

受外國人餽送條例、改定律例

第二百四十五條、凡外國人ノ餽送スル飲食、
宜等交際ノ禮ニ係リ互ニ相贈遺スル者ハ官
ニ告アスト雖モ以テ枉法論ノ限ニ在ラス
詐偽律

詐為官文書 新律綱領

凡官ノ文書ヲ詐為シ及ヒ増減スル者ハ皆徒三
 年省臺察司府藩縣ノ文書ハ二等ヲ減シ餘ノ文
 書ハ五等ヲ減ス未タ施行セサル者ハ各一等ヲ
 減シ重事ニ關スル文書ハ各一等ヲ加フ若シ規
 避スル所アル者ハ各重キニ從テ論ス
 其當諛ノ官司知テ聽行スル者ハ各同罪々流三
 等ニ止ル知ラサル者ハ坐セス

白川縣伺 七年六月 十二日

詐偽律詐為官文書條餘ノ文書ハ五等ヲ減

ト相見余ノ文書トハ縣廳内四課ノ文書ハ
 勿論其餘區戸長取締等ノ如キ公事ニ係ル
 文書ハ一切余ノ文書ヲ以テ論決可致候ヤ
 左スレハ此ノ區戸長ヨリ彼ノ區戸長ヘノ
 送籍狀ヲ詐為シ彼ノ區ノ戸長ヲ欺キ入籍
 スル者モ亦余ノ文書ヲ以テ論決懲役百日
 他人為ニ代書シ其情ヲ知ル者ハ從トナシ
 指一等ヲ減シ懲役九十日若シ謝金ヲ受ル者
 ハ賊ニ計ヘ枉法ニ准シテ論シ重ニ從テ料
 斷可然哉

指令

伺之通

詐偽律

詐為官文書條例 改定律例

第二百四十六條 凡私^{フクシ}ノ文書ヲ詐^サ為^イスル者ハ

情^ケヲ量^{ハカ}リ不^オ應^オ為^スニ問^ヒニ輕^ク重^クヲ分^ツ

京都裁判所 同 六年十二月

證^シ文^モ等^ニ餘人ノ名ヲ詐^リ牙^カ保^トナシ自己

又^テ有^ル合^シノ印ヲ以^テ偽^キ押^シ物^品ヲ典^シ賣^シ

或^ハ財^ヲ借^ル者云々ノ疑^キ義^キ先般相同候處

改定律例第二百四十六條ニ依^リテ科^ス斷^スト

御指令之^レアリ候ニ付^テ司法省日誌後第二十

九号新潟縣伺ニ私^シ印^ヲ偽^キ造^ル者ヲ以^テ

論^シ云々ノ御指令ハ^ニ援^ニ引^ルニ及^ハサル儀ニ

可^キ有^ル之^レ哉

指令

先般指令ノ通改定律例第二百四十六條ニ

依^ル可^シ新潟縣伺ノ指令ハ再^キ議^スニ依^リ改

正^ス

奈良縣伺 七年四月 八日

私印偽造スル者ハ即今本律有之候處私印
 卜云ニモ假令ハ區長戸長等ノ實印公私ニ
 用ルト雖モ出稼券或ハ送籍狀又ハ財物借
 貸與印其他公務ニ関スル事件ハ一般ノ私
 文ニ偽印スルト犯罪ノ權衡區別有之儀ト
 相考候然ラハ昨酉年十二月京都裁判所伺
 ニ改定律例第百三条凡官ノ印棄毀スル云
 ヲ御指令伺ノ通トアレハ前顯區長戸長
 ノ押印ノ如キモ公事ニ限り偽造官印律中
 餘ノ印ハ徒一年トアルニ依リ所分シ可然

哉

指令

京都裁判所伺ハ省寮ノ長官公務上ニ用フ
 ル印ヲ棄毀スルニ係ル本文ノ如キ區長戸
 長等ノ實印ヲ偽造スル者ハ偽造私印本律
 ニ依ル可シ出稼券送籍狀財物借貸等ノ文
 昏ニ偽印スル者ハ改定律例第二百四十六
 條ニ依テ科斷スベシ
 小田縣伺 七年十月
 詐偽律凡ソ私印ヲ偽造スル者ハ杖一百私

ノ文書ヲ詐為スル者ハ不應為 輕重二問
 フト有之然ルニ偽証書ヲ作り之ニ有合ノ
 他印ヲ捺シ乃チ謀書謀判ナルモノヲ以テ
 其奸情ヲ遂グル者アリ右ハ全夕新夕ニ造
 刻スル者ニ無之ヲ以テ偽印ト雖モ私ノ文
 書ヲ詐為スル者ヲ以テ論シ可然哉或ハ偽
 造ト偽印トノ間ハ只僅ニ彫刻スルト假用
 スルトノ別アルノミ其奸詐ノ情ト實用ノ
 實トニ至テハ聊カ伯仲無之者ニ自偽造私
 印ノ條ニ擬シ處断可然哉

指令

私ノ文書ヲ詐為スル者ヲ以テ論ス
 對詔上書詐否以實 新律綱領

凡對詔及ヒ奏事上書ニ詐テ實ヲ以テセサル者
 ハ徒二年

對詔上書詐不以實條例 改定律例

第二百四十七條 凡對詔及ヒ奏事上書ヲ除ク

外上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサル者ハ懲役
 一年事情輕キ者ハ懲役八十日

埼玉裁判所伺

罪案六年十二月
 節錄十九日

武藏国埼玉郡笹久保村農遊馬善次郎日私
 長男藤吉性來大酒ニテ常ニ兩親ヲ罵詈
 訛或ハ折々打擲ス且辛未十月大醉ニテ外
 ヨリ歸リ私ニ對シ酒一升買來レト軒ニ付
 酌酌ノ上過酒スルヲ恐レ五合求メ歸リシ
 所其少キヲ怒リ割木ヲ以テ擊掛リ戶外迄
 追驅來リシ故重々ノ不孝ヲ憤怒シ殺意ヲ
 發シ梶ニテ其外三四毆打シテ絶命サセ檢
 使ノ手数ヲ恐レ村吏ヘハ自死ノ趣ニ届ケ
 候



指令
 談犯ノ子平素大酒ヲ好ミ父ヲ毆罵スル
 數回一日大醉シテ家ニ歸リ老父ニ酒一升
 ヲ沽ハシム談犯之カ為ニ酒五合ヲ沽テ與
 フレハ之ヲ飲盡シテ猶不足ヲ怒リ薪ヲ提
 ゲ父ヲ起毆ス談犯勢迫リ情迫リ憤怒之ヲ
 毆殺スルニ至ル其情狀尋常故殺ヲ以テ擬
 スベカラズ子孫教令ニ違犯シテ祖父母父
 母督責シ邂逅死ニ致ス者ヲ以テ論シ其罪
 ヲ問ハス唯死スルノ後里正ニ告ルニ實ヲ

以テセザルヲ責メ 詐偽律對詔上書詐不
以實條例上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサ
ル情輕キ者ニ擬シ

懲役八十日 遊馬善次郎

新治裁判所伺 罪案六年 節録六月

常陸国信太郡井ノ岡村農山岡甚兵衛曰自
分好キヨ儀先年河内郡八代村半左衛門方
ヨリ離縁ニテ同人倅清平并娘リキ諸共引
取居シニ清平逃亡ナシ折々金子無心ニ来
レハ僅カ宛助加ナセシニ追々心底悪ク當

一月六日夜金策ノ由ニテ來リ妹リキ相
奉公致サスヘキ旨強詰ニ及ヲ以金一圓遣
不可間思止ル様教示致シ置シニ翌夜又來
リ一圓ニテハ不足ノ趣相罵リ刺ヘキヨヲ
可殺トテ組付ントスルヲ傍觀ニ堪ズ繩ヲ
以テ縛シ嚴重教戒シ倅武助俱々村境へ連
行キ解放セシニ清平棒ヲ以テ毆搦ルニ付
憤怒ノ餘リ自分モ松ノ棒ヲ拾ヒ取テ毆付
シニ不圖同人絶命ニ及ニ付村役人へハ行
倒死ノ趣ニ申届埋置ケリ

指令ニテ
 清平兇暴無頼強逼シテ妹ヲ娼妓ニ賣リ母
 フ殺サントスルニ臨ミ該犯救父ノ身ニシ
 テ即時救護シテ之ヲ捕縛シ後子宥シテ解
 放スルニ猶其惡ヲ改メザルノミナラス直
 ニ棒ヲ上ケ打ントスルヲ憤リ格闘シテ料
 ラス死ニ致スニ捕亡律罪人拒捕條罪人兇
 器ヲ持シ拒捕スルニ捕吏之ヲ格殺スルハ
 論スル勿レニ擬シ其倒レ死ト詐リ届ケ埋
 藏スルノ罪ノミヲ科ス

改定律二百四十七條 上ニ告ニ詎テ實
 以テセザルノ事情輕キ者
 有命ナレハ懲役八十日 山岡甚兵衛
 東京裁判所同罪案七年五月
 浅草幡隨院地中大眼院住職中村信齋供
 私儀六年十一月初旬ヨリ下谷萬年町高橋
 與吉妻チカト兩三度姦通シ尚同月下旬夜
 チカ儀拙寺へ罷越シ候節兩人俱々一間へ
 這入り蒲團ヲ敷キ枕ヲ並べ私ハ蒲團ノ上
 ニ居リチカハ寐仕度致シ殆ト姦合ノ場合

宣圖アヒカラン本夫與吉突然ト入來リ姦通見留夕
 リト大音ニ呼スハリ兩人ヲ打擲ン障子一二
 本打毀スツ際私ハ其場遁逃シ他人ニ扱ヲ頼
 ミ金十圓ヲ以テ私和セシ所其事世間、茶
 詰トナリ新聞ニ記載スルニ至リシハ全カ
 尙旭院留守居宣順ト淺草辻田儀兵衛ノ所
 為ニ可有之ト察シ就テハ己レノ御吟味ヲ
 蒙ラザル前却テ彼等ヲ誣告シ一二ハ身ノ
 禍ヲ逃レ一ニハ衆ノ謗リヲ避ント存シ右
 兩人ニテ無根ノ説ハ言觸シ善良ノ私ヲ冤ハ

罪ニ陷オシ入ル、ト巧ニ取捕ヒ出訴セシ所遂
 ニ惡事露顯ニ及ビ候

指令

己ガ所犯ハヲ蔽ハン為メ不實ヲ上告スルモ
 ノ改定律例第二百四十七條上ニ告ル
 ニ實ヲ以テセザル事情輕キ者ニ擬シ懲役
 八十日ノ所寺職タルヲ以テ
 禁錮八十日
 森事ハ本夫私和ヲ容ルヲ以テ論セス
 高知縣伺 七年六月 中村信勵

徒刑場ニ在ル懲役人ノ内懲役五年ノ者アリ其者懲役終身ノ者ヲ養子ニ致シ度存慮ヲ以テ懲役終身ノ者へ及相諮詢得、上五年ノ者ヨリ減等ヲ圖ル功ヲ企ツルニ同囚ノ内困窮ニ迫ル者アラハ金三圓位ハ遣シ可申代リニハ其者逃走ヲ企ツル各有ラ以テ訴出ル儀承知致シ吳度段懲役二年ノ者へ周旋相頼二年ノ者ヨリ其筋懲役十年ノ者へ申継ギ其場合ニ於テ二年ノ者ハ滿刑放免相成然ルニ十年ノ者ヨリ同十年ノ上

ニ加役一年トナル者ニ相咄シ其者困窮ニ迫ル場合ニテ同意致シ五年ノ者ニ直談ヲ遂ケ金ハ受取不申候得共前顯懲役終身ノ者ヨリ十一年ノ者逃走ヲ企ツル旨訴出ルニ付遂吟味候處右始未及白狀依テ改定詐偽律第二百四十七條ニ明文アリ輕キニ擬シ候テモ懲役八十日真ノ逃走ヲ企テナラサル者捧鎖ニ日夫ヲ以推考スレハ情輕シ其上終身懲役ノ者加等如何處置可仕哉不應為人輕キニ擬シ懲役三十日ノ處

棒鎖一日ニ換ヘ満刑ノ者ハ答三十實断可キ
然哉

指令

懲役人他囚ト糾合シ詐譎ノ辞ヲ作為シテ
官司ヲ欺キ同囚ノ減等ヲ求ム情罪大ニ重
シニ改定律例第二百四十七條告上不實ヲ
以テ論シ懲役一年懲役終身ノ囚及七懲役
十年加役一年ノ囚ハ徒ヲ以テ論シ懲役百
日他ノ二囚ハ不應為重ニ問ヒ懲役七十日
各囚原役満期ノ後加役ス其懲役終身者ハ

加役ス可ラサルヲ以テ例第五條ニ依リ棒

鎖三日ニ換フ

凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ絞省臺寮司府藩縣ノ

印ハ流一尋餘ノ印ハ徒一年未タ行使セサル者

ハ各一尋ヲ減ス財ヲ得ル者ハ各盜罪ヲ以テ重

キニ從テ論ス

偽造官印條例 改定律例

第二百四十八條 凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ絞
ニ處スル律ヲ改メ懲役終身

偽造寶貨新律綱領

凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スレハ銀數ノ多寡ヲ
 論セス首タル者ハ梟從タル者及ヒ匠人楮幣及
 造具者等ヲ製シ若クハ情ヲ知テ買使スル者ハ並
 ニ斬其雇人祿役ニ供スル者ハ乾曝挑水打炭等
 者ヲ徒三年
 若シ偽造已ニ成リ未タ行使セサル首タル者ハ
 斬從タル者及ヒ匠人ハ流三等雇人ハ徒一年半
 若シ偽造未タ成ラサル首タル者ハ流三等從夕
 ル者及ヒ匠人ハ徒三年雇人ハ徒一年

若シ過ヲ悔テ自首スル者已ニ行使スルハ一等
 ヲ減シ行使セサルハ罪ヲ免ス府藩縣通行ノ貨
 幣モ亦同シ

改正偽造寶貨律 改定律例

第百四十九條 凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使ス
 ル者首ハ斬從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使
 スル者ハ懲役終身其雜役ニ供スル者ハ懲役
 十年未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減ス
 其偽造未タ成ラサル者首ハ懲役三年從及ヒ
 匠人ハ懲役二年半雜役者ハ懲役百日

若シ過^ミテ悔^クビ自^ジ首^シスル者已^ニ行^キ使^スルハ二
等^ヲ減^ズシ未^ダ行^キ使^セサルハ罪^ヲ免^ス

長崎縣伺 六年十一月二十八日

當縣士族

負柁 延平

梅本 順作

無籍

右ハ罪^ノ案^ノ略^シノ通^ニ付^テ偽^ダ造^ル寶^貨條^ニ照^シ準^シ
延平ハ懲^レ役^終身^順作^ハ同^十年^可申^付哉

指令

偽^ダ造^ル寶^貨律^ハ寶^貨ヲ^偽造^シ未^ダ行^キ使^セサ
ル^ノ首

第^二百^五十^二條 除^ク族^懲役^終身 貞柁 延平

同^律 寶^貨ヲ^偽造^シ未^ダ行^キ使^セサル^ノ從

懲^レ役^十年

改^定律^例

第^二百^五十^條 偽^ダ造^ル寶^貨條^例 凡^レ金^銀貨^幣ノ^違縁^ヲ剪^錯シ^テ

利^ヲ取^リ行^キ使^スル^者ハ懲^レ役^三年

第^二百^五十^一條 凡^レ紙^幣ノ^字樣^ヲ挑^剽シ^成虎

ヲ^補鑿^シ筆^畫ヲ^描改^シ真^ヲ以^テ偽^ニ作^リ行

使^スル^者ハ懲^レ役^五年

第^二百^五十^二條 凡^レ偽^ダ造^ルタル^者ヲ^知テ^買取^ル

未タ行使セサル者ハ已買使レ者ニ等ヲ減ス
 第百五十三條 凡偽造タルヲ知テ雇ヲ受
 ケ接隠シテ真貨ニ兌換スル者ハ知情買使ヲ
 以テ論ス
 第百五十四條 凡偽造スルノ情ヲ知テ房屋
 ヲ給シ及ヒ窩藏スル者ハ已未行使ヲ介テ並
 ニ偽造徒ヲ以テ論ス
 第百五十五條 凡雜役ニ供スル者雇工錢ニ
 偽貨ヲ受ケ行使スル者ハ知情行使律ニ依ル
 第百五十六條 凡偽造已ニ成リ未タ行使セ

ズシテ悔悟シ其夥黨ヲ脱スト雖モ首報セサ
 ル者ハ偽造記城未行使ヲ以テ論ス其偽造未
 タ成ラサル者ハ懲役百日
 第百五十七條 凡人ノ寶貨ヲ偽造スルヲ
 知テ官司ニ申報セサル者ハ違令重ニ問フ
 第百五十八條 凡寶貨ヲ取受スルノ後始テ
 偽造ニ係ルヲ知リ官ノ檢視ヲ經ズシテ行
 使スル者ハ不應為重ニ問フ
 偽造寶貨條例 明治六年六月
 大政官二百三十一号御布告
 凡紙幣ニ印スルニ漏印及ヒ倒用スル者ハ一
 張

二懲役十日三張毎二一等ヲ加ヘ罪懲役七十日
二止ル若シ検査官失職騰交スル者罪亦同

偽造斛斗秤尺新律綱領

凡斛斗秤尺ヲ偽造スル者ハ流一等從タル者及
ヒ匠人ハ徒三年

偽造斛斗秤尺條例

明治六年八月二日
大政官二百七十九号御布告

凡斛斗ノ邊縁ヲ増補シ秤量ノ標星懸紐變換シ
テ利ヲ圖ル者ハ懲役一年半情輕キ者ハ不應
為律ニ問輕重ヲ分ツ
偽造私印

凡私印ヲ偽造スル者ハ杖一百財ヲ得ル者ハ賊
ニ計ハ各盜罪ヲ以テ重キニ從テ論ス

詐稱官新律綱領

凡無官ニシテ有官ト詐稱シ或ハ官司ノ差遣ト
詐稱シテ人ヲ捕ヘ及ビ官員ノ姓名ヲ詐冒シテ
求為スル所アル者ハ徒二年半犯ス所輕キ者ハ
杖七十

若シ見任官ノ子孫弟姪家令等ト詐稱シテ求為
スル所アル者ハ杖九十犯ス所輕キ者ハ答三十
從タル者ハ各一等ヲ減ス

若レ財ヲ得ル者ハ賊ニ計ヘ竊盜ニ準レ重キニ
從テ論ス罪流三等ニ止ル

詐稱官條例 改定律例

第二百五十九條 凡郷貫名氏ヲ詐稱シテ客塵

ニ宿スル者ハ不應為輕ニ問フ

詐稱病死傷新律綱領

凡官吏人等疾病ト詐稱シ事ニ臨テ難ヲ避ル者

ハ笞三十避ル所事重キ者ハ杖七十

若シ罪ヲ犯シテ死スト詐稱シ喚問ヲ免レトス

ル者ハ徒一年半避ル所事重キ者ハ各重キ一從

テ論ス 若シ人ト忿争シテ故サラニ自ラ傷殘シ人ニ詐

頼スル者ハ杖七十其雇ヒヲ受ケ人ノ為ニ傷殘

スル者ハ犯人ト同罪因テ死ニ致ス者ハ鬪殺罪

ニ一等ヲ減ス

若シ當談ノ官司知テ聽行スル者ハ同罪々流三

等ニ止ル知ラザル者ハ坐セス

詐教誘人犯法

凡詐テ人ヲ教誘シテ法ヲ犯サシメ卻テ自ラ捕

獲シ若クハ告擧シ或ハ人ヲシテ捕告セシムル

者ハ法ヲ犯スノ人ト同罪
犯姦律

犯姦新律綱領

凡和姦ハ各杖七十夫アル者ハ各徒三年
若シ媒合及ヒ容止シテ通姦セシムル者ハ犯人
ノ罪ニ一等ヲ減ス
強姦スル者ハ流三等未タ成ラサル者ハ一等ヲ
減ス因テ折傷スル者ハ絞婦女ハ坐セズ十二歳
已下ノ幼女ヲ姦スル者ハ和ト雖モ強ト同ク論ス
改正犯姦律

凡和姦ハ各杖七十夫アル者ハ各徒三年
若シ媒合及ヒ容止シテ通姦セシムル者ハ犯人
ノ罪ニ一等ヲ減ス
強姦スル者ハ流三等未タ成ラサル者ハ一等ヲ
減ス因テ折傷スル者ハ絞婦女ハ坐セズ十二歳
已下ノ幼女ヲ姦スル者ハ和ト雖モ強ト同ク論ス

第二百六十條 凡和姦夫アル者ハ各懲役一年

妾ハ一等ヲ減ス若シ媒合及ヒ容止シテ通姦

セシムル者ハ犯人ノ罪ニ三等ヲ減ス

強姦スル者ハ懲役十年未ダ成ラサル者ハ一

等ヲ減ス因テ折傷スル者ハ懲役終身婦女ハ

坐セズ十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ和ト

雖モ強ト同ク論ス

犯姦條例 明治六年七月廿八日
大政官二百七十三号御布告

凡妻妾ヲ縱容シテ人ト通姦セシムル者ハ本夫
姦夫姦婦各懲役一年因テ財ヲ圖ル者ハ枉法ニ

第十号
明治五年五月三
日 司法省御布
達
今般犯文之儀ニ
會左ノ通リ於當
省議定條條此
旨可相心得便事
凡女事他人ノ指
稱ニ係ル者論
スル事勿レ

擬律八打

准シ重キニ從テ論ス
犯姦條例 明治六年十月十七日
大政官二百六十号御布告
強姦死ニ致ス者ハ斬

足柄裁判所伺 罪案七年二月
節錄九日
相摸國足柄下郡小田原宿高金子寅吉曰當
戌一月同宿磯村大次郎娘コノ 十年四月 萬
町ナル蕎麥屋小島方へ誘ヒ行キ酒食ノ末
同卧セレト申聞ケ承諾ノ上終ニ姦淫ナセ
シ所同人ハ事済ヤ否ヤ馳歸リ其場ニ多分
出血之アリ翌朝大次郎方へ行シニコノ儀

陰門三分計リ裂ケ相傷ニ醫療罷在由ニ付
後悔ノ折柄御召捕相成候
指令

改定律例第二百六十條 十二歳以下ノ幼
女ヲ姦スル者ハ和ト雖モ強ト同ク論スト
アルニ依リ 二十五年 金子 寅吉
懲役十年

姦ニ依テ傷スルモ折傷以下ナルヲ以
テ本議ノ如シ
同律同條 姦セラル、ノ婦女ハ坐セスト

卷之八下 十

アルニ依リ

無罪

高知縣伺 七年六月

七日

明治六年五月二十五日愛媛縣伺書中第八條ニ未夕其家ニ入籍セスト雖モ内實人ノ妾トナル者姦罪ヲ犯ス片ハ姦夫姦婦各懲役一百日ニ處ス可キ哉ノ御指令凡妾ト稱スルハ双方許諾ノ上初テ其名ヲ定ムルヲ得ル其定名アル者姦罪ヲ犯セハ即チ有夫ヲ以テ論ストアリ

指令

未夕入籍セスト雖モ双方許諾ノ上其實際妾トナル者姦罪ヲ犯セハ即チ有夫姦ノ以テ論ス

度會縣伺 七年七月

二日

本年第十号ヲ以御省ヨリ御達相成候凡姦事他人ノ指稱ニ係ル者ハ論スルノ勿レトアル他人ハ親屬ニ對スル他人ニ候哉又ハ親疎ノ別ナク自身ノ外ヲ指テ都テ他人ト云儀ニ候ヤ且右他人ノ指稱ニ係ル者ヲ除

ク外罪ニ問フ可キ者ハ如何様ニ發露スル
場合ニ於テ刑ニ處ス可キ哉

指令

他人ハ本夫ニ對シテ言フ有夫姦ハ親疎ノ
別ナク本夫ノ外都テ他人ト心得只本夫ノ

親告スル者ヲ其罪ニ擬ス可シ
但シ親屬姦居喪姦鷄姦等ノ如キハ第十

号布達ノ限ニ在ラス
名東縣同 十七年七月

茲ニ姦夫姦婦ノ共ニ謀テ本夫ヲ毒殺スル

テ置クヘカラサルヲ以終ニ姦婦ヲ捕縛時
他縣ニ在リテ姦彈ヲ逐ル處其姦通ノ始末ハ

詳ニ之ヲ白スト雖モ毒殺ノ件ニ至テハ更
ニ之ヲ知ラスト言フ因テ猶又嚴密ニ探索

儀ハ判然毒殺ノ疑永解スト雖モ前顯ノ通
姦通ノ始末白狀ノ上ハ本律ニ依リ處断可

致哉又ハ其根元ノ指稱ニ係リ本夫ノ上
告無之ヲ以御布達ニ依リ不問ニ置クヘキ

風評有之探索ノ際其說益熾ニシテ勢捨
テ置クヘカラサルヲ以終ニ姦婦ヲ捕縛時
他縣ニ在リテ姦彈ヲ逐ル處其姦通ノ始末ハ
詳ニ之ヲ白スト雖モ毒殺ノ件ニ至テハ更
ニ之ヲ知ラスト言フ因テ猶又嚴密ニ探索
儀ハ判然毒殺ノ疑永解スト雖モ前顯ノ通
姦通ノ始末白狀ノ上ハ本律ニ依リ處断可
致哉又ハ其根元ノ指稱ニ係リ本夫ノ上
告無之ヲ以御布達ニ依リ不問ニ置クヘキ

哉 指令 不問ニ置ク

親族相姦新律綱領

凡父祖ノ妻姑姉妹及ヒ子孫ノ婦兄弟ノ女ヲ姦スル者ハ各流三等強姦スル者ハ斬
若シ母ノ姉妹及ヒ兄弟ノ妻姪ノ妻ヲ姦スル者ハ各流一等強姦スル者ハ絞
ハ各流一等強姦スル者ハ絞
一等ヲ減ス強姦スル者ハ絞
若シ前夫ノ女同母異父姉妹ヲ姦スル者ハ各徒

三年強姦スル者ハ絞

福岡縣伺 七年六月二十一日

本年第十号御省御達凡姦事他人ノ指稱ニ係ル者ハ論スル勿レト右ハ有夫姦ナレハ本夫ノ申告ヲ待テ罪ヲ科スヘシト雖モ親屬姦居喪姦鶏姦ノ如ニ他人ノ指摘ヲ論スル無キ件ハ罪ノ科ス十カルニ至ラン仍テ是等ハ親戚ノ申告ヲ待テ罪ヲ論スヘキ歟若然ラハ親戚ハ何等親迄ヲ云フ子姦ハ本文ノ限ニ非ズト心得可然歟

親屬姦居喪姦鷄姦等ハ第十号布達ノ限ニ在ラス親屬ハ律ニ該載スル処ノ五等親皆申告スルヲ得可シ但書伺ノ通

親屬相姦改定律例
第二百六十一條 凡父祖ノ妾伯叔姑姉妹及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者ハ各懲役三年強姦スル者ハ懲役終身若シ母ノ姉妹及ヒ兄弟ノ妻姪ノ妻ヲ姦スル者ハ懲役二年妾ヲ姦スル者ハ各一等ヲ減ス強姦スル者ハ並ニ懲役終身

若シ兄弟姉妹ノ女及ヒ前夫ノ女同母異父姉妹ヲ姦スル者ハ各懲役一年強姦スル者ハ懲役終身

東京裁判所 同 罪案六年 節録十月

東京府士族六郎祖父宅間與右衛門曰私儀當九月六十二年五箇月ニ相成老人ノ身ニテ養女カ子ト從來姦通致シ居リ丁卯年中懐妊セシ故墮胎致サセシ所當年又モ懐妊シ彼此配慮ノ折遂ニ暴露致シ候
指令

養女ト姦スル者 犯姦律親屬相姦條 前
夫ノ女ヲ姦スル者ハ各懲役一年ト云ニ依
テ論シ

除族懲役一年

宅間與右衛門

墮胎セシムル罪ハ赦前ニアリ且輕キ

ヲ以テ論セス

同一年

カ子

墮胎 同上

和歌山縣 同 六年十一月
二十七日

實母或ハ養母ト姦スル者 互ニ一等親ニ係

リ破倫甚シキ者ニ付各懲役十年處斷致シ
可然哉

繼母ト姦スル者ハ凡父祖ノ妾伯叔姑姉妹
及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者ノ權衡ニ依リ各
懲役三年處斷シ可然哉

指令

第一條 子實母ヲ姦スル者ハ各懲役終身
養子養母ヲ姦スル者ハ伯叔姑ヲ姦スル
律ニ依リ各懲役三年 義子家系相續セズ別
者ヲ云 義母ヲ姦スル者ハ雇人家長ノ妻ヲ

姦スル律ニ依リ各懲役一年半
 第二條 子養ヲ受ル繼母子如ニシテ親母死シ或ハ離別サレ恩養ヲ受ル繼母ヲ云フヲ姦スル者ハ伯叔姑ヲ姦スル律ニ依リ各懲役三年 子養ヲ受ガル繼母ヲ姦スル者ハ雇人家長ノ妻ヲ姦スル律ニ依リ各懲役一年半
 白川縣伺 罪案六年 節録十二月
 熊本住士族和田信平曰ク六年十月十日倅儀藏并同人妻タキ共家内三人ニテ飲酒ノ半ハ倅ハ要事アリ他出セシ跡尚ホ私ハ數

盃ヲ傾ケ満醉シ五十七年七月ノ身ニモ似合ハス不圖情欲發動シ嫁タキヘ姦通セント通追セシ所同人拒ンテ從ハス且逃走セント欲スル様子故驚キ差齒ムレ氏強テ馳出セシニ付繼ヒテ追ヒ出テ連レ歸ント云ニ尚ホ聞入ガルヲ以テ一時憤怒ニ忍ビ難ク技刀シ所々へ疵負ハセ候
 指令
 子婦ヲ姦セントシテ又傷廢疾ニ致ス強姦ト異ナルナシ親屬相姦條子孫ノ婦ヲ強

姦スル者ヲ以テ論シ

除族懲役終身

姦家長妻女 新律綱領

和田信平

凡奴僕雇人家長ノ妻ヲ姦スル者ハ流三等姦婦
 ハ徒三年強姦スル者ハ斬
 若シ家長ノ女姉妹及ビ姑若クハ兄弟ノ妻ヲ姦
 スル者ハ流一等婦女ハ凡姦ヲ以テ論ス強姦ス
 ル者ハ絞妾ヲ姦スル者ハ各一等ヲ減ス強姦ス
 ル者ハ絞

姦家長妻 改定律例

第二百六十二條 凡雇人家長ノ妻ヲ姦スル者

ハ各懲役一年半強姦スル者ハ懲役終身

姦部民妻女 新律綱領

凡官吏所部内ノ妻女ヲ姦スル者ハ凡姦罪ニ二
 等ヲ加フ婦女ハ凡姦ヲ以テ論ス

姦部民妻 改定律例

第二百六十三條 凡官吏部民ノ妻ヲ姦スル者

ハ懲役一年半相姦スルノ妻ハ懲役二年

京都裁判所 同 七年四月
 改定律例二百六十三條 凡部民ノ妻ヲ姦ス

ル者ハ懲役一年半云々本年日誌第三号滋
 賀縣同第三項部民ノ妻ヲ姦スル云々ノ官
 吏ハ屬以上ヲ云フ是屬トハ官十三等以上
 ノ者ヲ云フカ然ニ新律官吏求借財物條凡
 監臨官吏挾ヲ挾ミ所部内ノ財物求索借貸
 スル者ハ並ニ賍ニ計ヘ去ク其監臨ニアラ
 サル官吏ハ一等ヲ減ス本年第十号奈良縣
 同番人松本定三犯罪ノ御指揮ニ監臨官吏
 挾ヲ挾ミ所部内ノ財物ヲ求索借貸云々ト
 アリ然ルニ部民ト稱シ部内ト稱スル其管

スル所ノ廣狹ニ依リ多寡ノ別ハアレ所監
 臨ノ儀ニ於テハ一ナリ故ニ戸長番人等ト
 雖モ其所部内ノ財ヲ求索スルニ監臨ヲ以
 テ責ム可ケレハ其所部内ノ妻ヲ姦スル亦
 部民ヲ以テ論セサル可カラス均是官吏ナ
 リ而シテ其姦スルハ屬以上ニ止メ求索ス
 ル等ノ犯ハ准等外ノ吏ニモ及スハ律條ニ
 於テ如何ノ意儀之アルトニ候哉
 指令
 戸長番人等部内ノ妻ヲ姦スルハ部民ヲ以

テ論セス常律ニ依ル
居喪及僧尼犯ス新律綱領

凡父母舅姑及ヒ夫ノ喪ニ居リ若クハ僧尼ノ喪ニ
犯ス者ハ各凡茲罪ニ二等ヲ加フ相姦スルノ
人ハ凡茲ヲ以テ論ス

居喪犯姦 改定律例

第二百六十四條 凡父母舅姑及ヒ夫ノ喪ニ居
リ姦ヲ犯ス者ハ各凡茲罪ニ一等ヲ加フ相姦ス
ルノ人ハ凡茲ヲ以テ論ス

改正居喪犯姦律 明治六年七月三十日太政官
第二百七十四号御布告

父母舅姑夫ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ各凡茲罪ニ
一等ヲ加フル律ヲ改メ父母舅姑ノ喪ニ居リ姦
ヲ犯ス者ハ凡茲ヲ以テ論シ夫ノ喪ニ居リ姦ヲ
犯ス者ハ有夫ヲ以テ論ス相姦スルノ人ハ並ニ
同罪

犯姦條例

第二百六十五條 凡和姦ノ後姦情敗露ニ因テ
姦婦悔迫自盡スル者ハ姦夫情ヲ知ラスト雖
モ姦罪ニ一等ヲ加フ
第二百六十六條 凡姦姦スル者ハ各懲役九十

日華士族ハ破廉恥甚ヲ以テ論ス其姦セラル
 々ノ幼童十五歳以下ノ者ハ坐セス若シ強姦
 スル者ハ懲役十年未タ成ラサル者ハ一等ヲ
 減ス
 第二百六十七條 凡私娼ヲ街賣スル者ハ懲
 役四十日婦女及七媒合容止スル者ハ一等ヲ
 減ス若シ父母ノ指合ヲ受ル者ハ罪ヲ其父母
 ニ坐シ婦女ハ坐セス
 京都裁判所同 六年十一月
 改定律例第二百六十七條私娼街賣ノ條窩

注ハ懲役四十日婦女及七媒合容止スル者
 ハ一等ヲ減ス云々其婦女實斷収贖ノ分辨
 相見ヘ不申候処当一月中新條例ニ私娼ヲ
 街賣スル窩主ハ笞三十實決ス婦女及媒合
 容止スル者ハ笞二十各例ヲ照シテ贖ヲ聽
 ス云々トアルニ付窩主モ婦人ナレハ収贖
 シ且窩主ナクシテ私娼スルハ其身笞三十
 ノ収贖ニ處スヘキヤ云々奉伺候所窩主ハ
 違令ノ重笞四十婦女及七媒合容止スル者
 ハ並ニ一等ヲ減スト御指令之アリ候間其

婦女ハ右伺ニ依リ收贖ニ處シ來候處本省
 日誌十号新川縣伺御指令モ例ニ依リ贖ヲ
 聽スト相見改定律後モ右ノ通ニ付是迄
 斷失出入之ナキ儀ト奉存候所同二十三号
 兵庫裁判所伺ニ私娼街賣ノ婦女實決ニ処
 スト之アリ是ニ依リ候ハ改定律後收贖
 ニ處スルハ失出ト謂フ可キカ右ハ畢竟違
 令ノ犯罪ナレモ茲罪ヲ以テ論スルニ付犯
 茲律内ニ編入シ婦女ト雖モ實斷スルニ可
 有之カ然ニ処女嫠婦ノ茲ヲ問ハス改定律

例ニ於テ凡姦ヲ以テ論ストハ懲役一年ニ
 処スルヲ去フトノ御指令ニ依レハ有夫姦
 ヲ除クノ外凡人淫通ハ姦罪ヲ以テ論セサ
 ル筋ニ相見候へ共私娼街賣ハ處女ト雖モ
 姦罪ヲ以テ論ス可キ哉其餘女ニシテ公然
 猥褻ノ行ヲ爲シ風俗ヲ紊乱スル者等不應
 為ニ科スルノ類モ仍ホ姦罪ヲ以テ論シ実
 斷ス可キ哉果シテ然ラハ姦罪ハ自首ノ限
 ニ在ザルニ付右ノ類違令不應為等ヲ以テ處
 スモノモ亦自首ヲ准サブル儀ニ可有之哉

私娼街賣ノ婦女ハ從來實斷ノ所自今改テ
收贖ヲ聽ス但シ窩主及ビ媒合容止スル者
ハ贖罪收贖ニ處ス

滋賀縣伺 七年二月二十七日

近江國滋賀郡金塚

コト

右ハ罪案之畧ノ通夫有之身分ニテ夫ニモ告
ゲス賣淫スルハ尋常處女ノ賣淫ト異ナリ
其夫ヲ輕侮シ倫ヲ破ルノ甚シキ私娼ヲ
街賣スル條ニ因リ難ク仍テ犯姦律和姦夫

アル者ヲ以テ論シ懲役一年申付可キ然哉

同小川早

村井カウ

右ハ一人ノ妻タルヲ承知致シナカラ利ヲ蓄
リ賣淫為致候ハ犯姦律和姦條媒合及ビ容
止シテ通姦セシムル者ヲ以テ論シ犯人ノ
罪類三等ヲ減シ收贖シ可然哉

同創指令

貧窮ノ餘リ其夫ニ知ラシメス家計ヲ補ハ
シト欲シ私ニ賣淫スル者私娼街賣ヲ以テ
論シ改定律第二百六十七條凡私娼ヲ

街賣スル高主ハ懲役四十日婦女ハ一等ヲ
減スト云ニ依リ懲役三十日贖ヲ聽ス

収贖金七十五錢

同條凡私娼ヲ街賣スル高主ハ懲役四十
日贖ヲ聽ス

同一圓

村井カウ

三重縣伺 七年三月二十九日

游女及ヒ貸坐敷渡世ノ者へ鑑札相渡シ

稅ヲ以テ夫々差許無鑑札ニテ渡世不相成

旨縣下取締ノ方法相立置候就テハ無鑑札

有之者鑑札所持ノ貸坐敷ニ於テ賣淫スル者
有之節婦女ハ鑑札所持致サブルヲ責メ

貸坐敷渡世ノ者ハ右無鑑札ノ情ヲ知テ坐

敷ヲ貸シ與フルヲ咎メ共ニ違式輕重ニ問

擬候テ可然哉

指令

二條トモ改定律例第二百六十七條私娼街

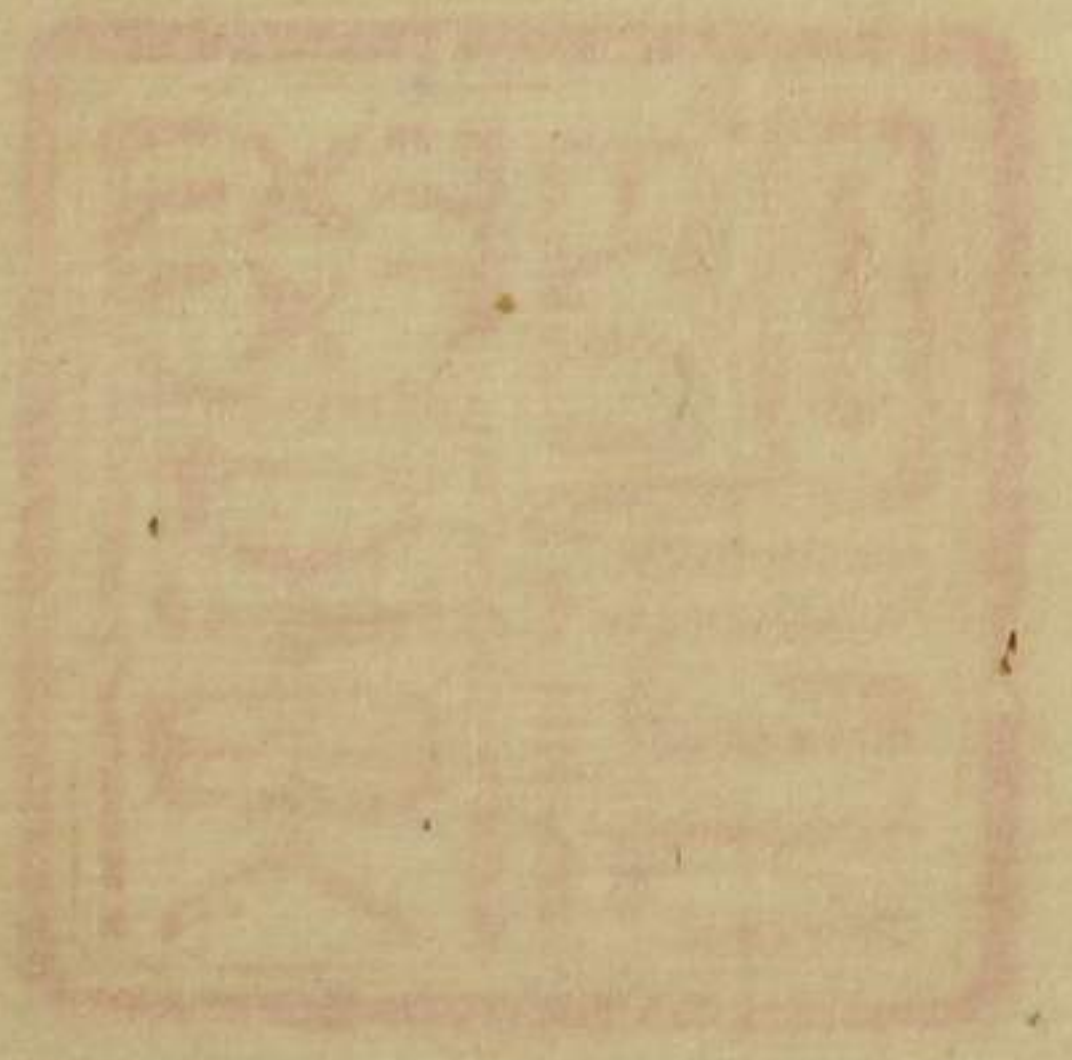
賣ノ律ニ照シ贖ヲ聽ス

第二百六十八條 凡僧尼ノ姦ヲ犯ス者ハ凡姦

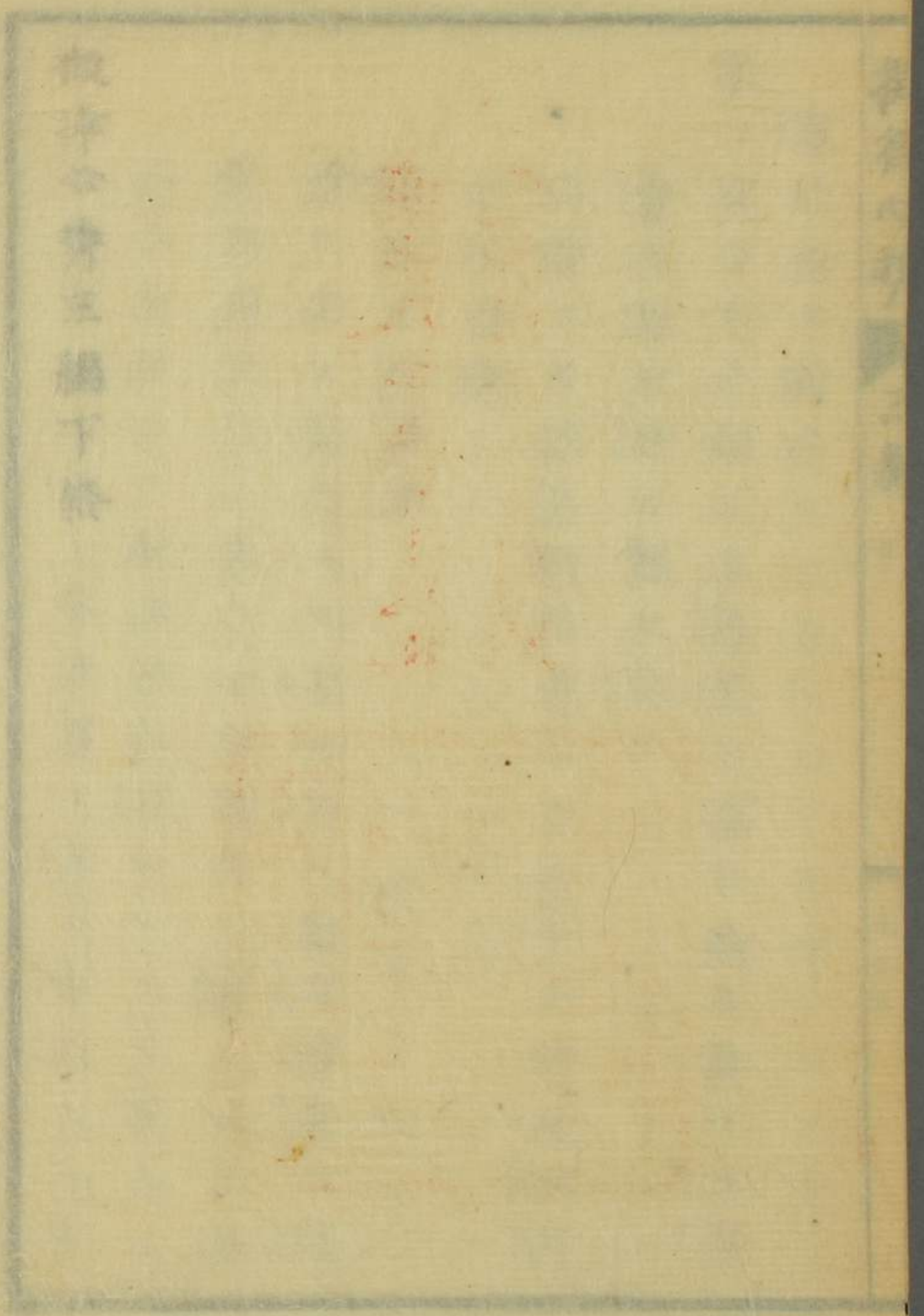
罪ヲ以テ論ス

聖朝... 二百六十八...
 清八... 湖... 數...
 所... 亦... 策... 十... 十...
 擬律必携三編下終

明治八年正月十八日
 光緒... 八月... 日



明治八年五月十八日
免許同年八月刻成



擬律必携賣弘所

靜岡 浪花屋市藏

越前

楠屋甚三郎

勝村治右衛門

書林 吾妻屋俊平

日向

和泉屋市兵衛

西京 村上勘兵衛

甲府 藤屋傳右工門

信州

鼠屋 甲藏

書林 菱屋孫兵衛

相州 米屋忠兵衛

上田

六明 舍

田中治兵衛

小田原 本屋平七

共同

南

大坂 伊丹屋善兵衛

武州 博文堂市三郎

松本

藤松屋禎十郎

敦賀屋九兵衛

熊谷 六明 舍

高見屋

甚左門

書林 河内屋甚助

上州 高崎 恣堂源作

善光寺

小升屋喜太郎

河内屋真七

肥前 厚生分社

萬屋伴

五郎

名古屋 美濃屋代助

佐賀 熊本吉藏

敦屋忠之助

書林 萬屋 東平

榎屋莊助

中村屋

喜兵衛

永樂屋東四郎

長崎 書籍會社

金澤

近岡屋太兵衛

越後	上田屋治兵衛	岩代	近江屋三十郎	野州	叶屋儀右工門
長岡	鳥屋十郎	福島	上野屋彦太郎	栃木	河内屋甚兵衛
葛塚	三條屋七十郎	陸前	菅原屋安兵衛	足利	和泉屋市兵衛
小千谷	野口保吉郎	仙臺	伊勢屋安兵衛	千葉	藤屋清七
三條	樋口屋小右工門	佐下原	正文堂利兵衛		
加茂	丸山乙八	出雲	寺萬次郎	瀨州	伊藤和七郎
沼垂	本屋善作	須原	屋伊八	武州	伊藤和七郎
水原	島屋六平	和泉	屋孝之助	武州	松枝祝三郎
コスト	新保屋太吉	梶屋	喜兵衛	社大傳	馬町三丁目
高田	藤屋直三郎	須原	屋茂兵衛	東生	龜次郎
箱館	魁文社	山城	屋佐兵衛	本石町	四丁目
水戸	新報義社	和泉	屋吉兵衛	中	岩本忠藏出版
				芝神明前	山中市兵衛製本

